児童の動機付けと学校適応感

—算数の有能感との関連性から—

富岡比呂子

(創価大学教育学部)

キーワード：動機付け、学校適応感、算数の有能感

Motivation and School Adjustment in Elementary School Students:

Its relation to Arithmetic Competence

Hiroko TOMIOKA

(Soka University)

Keywords: Motivation, School adjustment, Arithmetic competence

目 的

本調査の目的は、児童の学習への動機づけと学校適応感との関連を検討することである。さらに、算数の有能感や意欲・興味についての項目を追加することで、特定の教科の有能感と適応感との関係や、動機付けがどのような構成概念に影響を与えるかを考察する。

方 法

2014年9月に小学3~6年生計274名(男子135名、女子139名)に以下の尺度を実施した。

- ①自尊感情尺度(山本・松井・山成、1982)より3問
- ②児童用セルフ・エフィカシー尺度(福井ら、2009)より3問
- ③自己概念尺度(富岡、2011)より「スポーツ(身体的能力)」「国語」の項目計6問
- ④学校適応感(「適応感」「活動への参与」「学習態度・志向性」「自己開示」「規則遵守・公平さ」を問う質問計12問)
- ⑤学習への動機づけ(速見・田畑・吉田、1996)より7問
- ⑥友人関係への動機づけ(岡田、2005)より6問
- ⑦算数の有能感・意欲(19問作成)
- ⑧算数の単元別の達成度(5問・学年によって内容は異なる)

結 果

性別と年齢の主効果と交互作用をみるために2×4の2要因分散分析をおこなった。性別の主効果については、自己概念尺度の「スポーツ」($F(1, 273)=11.54, p<.001$)と「算数の有能感」($F(1, 273)=8.55, p<.01$)は男子が女子よりも有意に高かった。「国語」($F(1, 273)=14.08, p<.001$)、「適応感」($F(1, 273)=4.24, p<.05$)においては女子が高かった。

学年の主効果については、「友人関係(内発的動機付け)」を除く全ての下位尺度において、学年による有意な差が見られた。TukeyのHSD法による多重比較をおこなうと、3年と4年が、5、6年生よりも高い値を示した。これによって、学習や友人関係への動機づけおよび学校適応感は学年が上がると共に低下する傾向にあることが示された。

下位尺度間の関連をみると、「適応感」が「学習の内発的動機付け」($r=.44$)、「友人関係(内発的動機付け)」($r=.45$)と有意な正の相関を示し、適応感が高い児童は自ら学ぶ意欲が

あり、友人関係を内発的な理由で選択する傾向があることが示された。また、「学習の内発的動機付け」と「算数の意欲・実用感」(.61**)、「算数の有能感」(.48**)、「算数の単元別の達成度」(.61**)が高い正の相関を示した。「算数の単元別の達成度」は、「適応感」(.43**)とも正の相関を示し、学習へ内発的に動機づけられている児童は、算数の意欲や有能感も高く、学校への適応感も高まる傾向にあることが示唆された。

考 察

性差と学年差については、先行研究と同じ傾向を示した。算数の興味・関心、有能感は男子が高い傾向にあった。算数の有能感は自己効力感、学習への内発的動機付けやと高い相関があった。学習の外発的動機付けについては、算数の生活実用感と高い相関が見られ、算数が「楽しい」から学ぶよりも、「必要だから、役に立つから」学ぶ児童は、外発的な理由づけで学ぶ傾向にあることがわかった。今回の新たな発見として、算数の有能感や達成度は、学年が上がるにつれて、内発的動機付けとの相関が高くなり、外発的動機付けとの相関が低くなっていた。これは、「叱られるのがいやだから」学ぶ児童よりも、「学ぶことが楽しいから」「新しいことをもっと知りたいから」自ら進んで学ぶ児童の方が、算数への興味が増し、有能感が高まる可能性を示唆しており、内発的に学習に動機づけられることの重要性を示しているものと思われる。

引用文献

- 速水敏彦・田畑 治・吉田俊和 (1996) . 総合人間科の実践による学習動機づけの変化 名古屋大学教育学部紀要、43、23-35.
- 岡田 涼 (2005) . 友人関係への動機づけ尺度の作成および妥当性・信頼性の検討—自己決定理論の枠組みから パーソナリティ研究、14、101-112.
- 坂野雄二・東條光彦(1993). セルフ・エフィカシー尺度 上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック、西村書店.
- 富岡比呂子 (2011) . 日米の小学生の自己概念—自己記述質問票(SDQ-I)の心理測定的検討 パーソナリティ研究 19、191-205.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子(1982). 認知された自己の諸側面 教育心理学研究、30、64-68.